

平成 31 年度（令和元年度）

（1）みんなで考える起業—近年の動向と成功のためのヒント

- 日時：令和元年 7 月 7 日（日曜日）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- 講師：嶋根 政充氏（明海大学経済学部准教授）
- 内容：

起業に関心がある人や、これから起業することを目指している人のための入門セミナーを行いました。

セミナーでは、起業をするために必要なプロセスやスタートする際に準備すべきこと、マーケットを知ることなど、起業の基本について学習しました。起業を実現するためには、起業のプロセスの順番を間違わない、その上で、ビジネスプランを入念に立てる、支援者・協力者を得る、起業融資のスタイルを知り・活用することが大切であることを学びました。参加者は起業を進めていくうえで大きなヒントを得ることができ、貴重な機会となりました。

（2）あなたの“キャリア”を生かす再就職支援講座

- 日時：令和元年 9 月 6 日（金曜日）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- 講師：森 ゆき氏（国家資格キャリアコンサルタント）
- 内容：

家事・育児などで離職した女性にとって、再就職はハードルが高いものとなっています。再就職を希望する女性が、自分の持てる能力と将来への希望を確認し、自信を持って再就職活動できるようエンパワーメントすることをめざし本セミナーを実施しました。

講師の講義に加え、小グループでのワークを通し、参加者は自身の価値観やなぜ働きたいのかという問いかけを行い、就職に向けての心構えを確認しました。その上で、自分らしい働き方と希望する仕事について描きました。参加者はこれによって自分の方向性を描くことができ、再就職にむけての自信につながったようです。

(3) 後悔しないための離婚の法律知識

- 日時：令和元年 9 月 24 日（火曜日）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- 講師：宮下 真理子氏（茜空法律事務所代表弁護士）
- 内容：

離婚を考え、決断する時に必要な基礎的な法律知識や手続き、実際の流れについて、女性の立場や状況を理解される弁護士・宮下真理子さんにお話しいただきました。

離婚訴訟の流れや離婚の進め方、離婚の際に決めておくべきこと、協議離婚・調停離婚・裁判離婚という 3 つの離婚訴訟の要点と注意すべき点、婚姻費用の算定の仕方について、実際に使われる申立書や書類、算定表を使って説明されました。

主な離婚理由として DV・モラハラを挙げ、DV の加害者（夫）は被害者（妻）に対し「要求」と妻が悪いと「妻を責める」ことを繰り返し、妻を「渦」に引き込み妻の判断力を失わせるというのが DV の実態であるが、一方で、DV 被害者は保護命令など法律で守られているとお話されました。

離婚を決断するにあたっては「自分がどうしたいか」、さらに「離婚後の自分らしさ、何を得たいか、そのためにどのように過ごすか」を考え決めることであるという講師の言葉は説得力があり、参加者にとって大きな気づきとなったようです。

(4) "性別"って何だろうー見えない/見せないしんどさを抱える子どもに寄り添う

- 日時：令和元年 11 月 2 日（土曜日）午前 10 時から正午
- 場所：高洲公民館 第一会議室
- 講師：飯田 亮瑠（いいだ あきる）氏（任意団体 Diveinnon（ダイビーノン）代表）
- 内容：

「性別」はアイデンティティーの要素のひとつであり、子どもは成長とともに徐々に自分の「性別」を認識するようになります。性別・性的指向について、おとなの誤った刷り込みや理解から、対応によっては子どもたちを傷つけることもあります。そのことから、保護者・おとなを対象に、セクシュアリティ（性のあり方）と多様な性について学び、性別に違和感や悩みを持つ子どものサポートについて考えました。

マスコミの興味本位で差別的な取り上げ方によって、私たちは性別について誤ったイメージを持ったり刷り込みされてしまいます。性の在り方は人それぞれ多様であり、多様であることを【知り・感じ】、【想像でき】、【配慮できる】ことが大切であり、多様な性への理解につながることを学びました。

注記：

性の多様性の理解を図るために、ルピナスセミナー（4）は高洲公民館との共催で、小・中・高等学校の保護者・大人を対象に実施しました。これと連携し、高洲公民館主催で市内教職員を対象とした講習、高洲中学校 1 年生を対象とした人権教室をそれぞれ実施しました。

(1) 千田有紀さんと考える、「私らしい生き方からジェンダーに気づく」

- 日時：平成 30 年 7 月 13 日（金曜日）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- 講師：千田 有紀 氏（武蔵大学社会学部教授）
- 内容：

自分らしさって何だろう？これからどう生きていくのだろうか？そんな思いや疑問を抱いたことはありませんか。家族社会学について研究されている千田有紀さんとともに、ジェンダーという視点から、恋愛、結婚、家族について考えました。千田さんは、「中世ヨーロッパや江戸時代の家族像は、当時の経済や自然を礎とする歴史的思想が反映されており、時代とともに社会の価値観や規範は変わってきている」、そして「現代の日本の女性は、固定的な女性らしさなど古い考え方にとらわれており、仕事も、家事も、そして美しくあることなど多様なことを求められ疲弊している」と指摘されました。「自分の望む形で生き、振る舞うことができることは当然の権利です」という千田さんの言葉に参加者は納得。日頃、女だから、男だから、こうあるべきという意識にとらわれていることに気づいたセミナーでした。

(2) ルピナス・ブックトーク 小倉千加子さんに聞く「オンナらしさ入門（笑）」

- 日時：平成 30 年 7 月 18 日（水曜日）午前 10 時 30 分から正午
- 場所：男女共同参画センター
- 講師：小倉 千加子 氏（心理学者）
- 内容：

「松田聖子論」などでおなじみの心理学者・小倉千加子さん。ご自身の著書「オンナらしさ入門（笑）」を書かれた狙いやタイトルにある「オンナらしさ」について伺いました。ジェンダーやセクシュアリティ（人間の性の在り方）について、「オンナらしさ」を切り口に明晰に、かつわかりやすくお話しいただきました。性別は主に 5 つの要素（親、兄、仲間、幼保育園、TV・CM）の影響を受け類型化されているとされ、女の子・男の子はどのように女の子・男の子らしく育てられてい

くのかについて、身近な例をもとに説明していただきました。ジェンダーは社会的、文化的に作られていくということを改めて気づき、考える時間となりました。

(3) 自分で守ろうココロとカラダ 母子で学ぶ護身術

- 日時：平成 30 年 8 月 29 日（水曜日）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分
- 場所：日の出公民館 大集会室
- 講師：浦安警察署
橋本 明子 氏（WEN-DO インストラクター）
- 内容：
昨今、女性や子どもに対する性犯罪や監禁などによる被害がたびたび報道されています。女性や子どもが性犯罪の被害者とならないよう、小学 4 年以上の母子や女性を対象に、自分の身は自分で守るための護身術を学ぶワークショップを行いました。参加者は、浦安警察署員による性暴力被害と防犯についての講和に続き、護身術の講師による講義を聴いた後、護身術を実際に体験しました。2 人 1 組になり、声による威嚇や身体を使った防御法を演習することで、自分にも容易にできると認識でき、自信につながったようでした。

(4) 納得・支持を得るプレゼンカ UP 講座

- 日時：平成 30 年 9 月 1 日（土曜日）午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- 講師：椿 景子 氏（NPO 法人国際ファシリテーション協会 専務理事）
- 内容：
昨年度好評だったファシリテーター講座の続編として、今年度は、「伝える・伝わる」をキーワードに相手を納得させるプレゼンカ UP 講座を開催しました。グループに分かれて自己紹介をした後、プレゼンテーションの考え方や目的について学び、グループごとに実践演習をしました。セミナーの締めくりとして、参加者が一人ずつ「セミナーで学んだことを生かして何をしたいか」を 5 分間にまとめ、発表しました。参加者は、「プレゼンテーションを最適に構成しデリバリー（表現）するためには、何を言ったかではなく何が伝わったかを相手の立場に立って考えることが大切だ」という講師の言葉を改めて確認しました。

(5) イライラや怒りの感情と上手に付き合うためのアンガーマネジメント講座

- 日時：平成 30 年 9 月 8 日（土曜日）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- 講師：菅野 昭子（かんの しょうこ）氏
（一般社団法人 日本アンガーマネジメント協会 公認シニアファシリテーター）
- 内容：

アンガーマネジメントは、イライラや怒りの感情（アンガー）をうまくコントロールし、適切に対処するための心理療法プログラムです。この感情をコントロールすることで、コミュニケーション能力の向上にもつながると言われています。怒りは人間にとって自然な感情の一つで防衛感情であり、この怒りには 4 つの問題となる怒りがあります。セミナーでは、怒りの感情をコントロールするための 3 つの方法を学びました。菅野さんは、アンガーマネジメントの目的は「怒りの連鎖を断ち切ることである」と締めくくられ、参加者全員が納得、仕事や地域活動、家庭、子育てなど日々の生活で活用したいと好評でした。